



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

6月号 令和8年5月29日

## コンパニオンプランツ

校長 福田博志

天候不順のため2回延期された体育祭でしたが、生徒の皆さんは競技者、競技役員、応援者としてそれぞれの立場で全力を尽くし、「完全燃焼」してくれました。競技はもちろん、自分の役割や仕事に責任を果たしている姿や仲間を励ましている姿が随所に見られた素晴らしい体育祭でした。参観にお越しいただきました保護者・地域の皆様、ありがとうございました。



さて、私の家には、狭い庭があります。そこで、収穫の時の楽しみに少々の野菜を育てています。先日、近所のホームセンターでトマトとバジルの苗を買ってきて植えました。

ところで、皆さんは、「コンパニオンプランツ」について、ご存知ですか。「コンパニオン」とは「仲間、付き添い」という意味があります。「プランツ」は、「植物」です。野菜の生育のために一緒に植えることでお互いに良い影響を与える「共栄作物、共存作物」とも呼ばれています。例えば、野菜類とハーブ類をうまく組み合わせると病気や害虫を防ぎ、成長を促進し、収穫量が増えたり、味や香りを良くしたりと様々な良い効果を生み出します。良い組み合わせの例としてはスイカとネギ、ニンジンとマメ科などがあり、特にトマトとバジルの組み合わせは有名です。このコンパニオンプランツをうまく活用することで農薬や肥料の使用を抑えることができます。

私たちが生きているこの自然界では、様々な生物が影響を与え合って共存しています。性質の違う生物たちが、お互いを滅ぼすことなく、生態系を維持していくためには、ある条件が必要不可欠だと言われています。その条件とは「それぞれの生息地の環境が異なっていて、完全に途切れて分断されていたり、逆につながりすぎていたりせず、お互いの間を生物がほどほどに行き来できること」だそうです。「様々な生態系がみんな違って、しかも互いに『ほどほど』につながっていることが、自然のバランスを保つカギ」となり、「違ってはいるけど、つながっている」がとても重要なキーワードになるようです。

人間関係においても、一緒にいると良い影響を与え合う組み合わせが存在します。お互いの長所を引き出し合い、短所を補い合える仲間が多ければ、お互いがより成長できます。人が人に与えることができる最大の贈り物は「相手を認めること」です。人から認められることで、人は誰でもうれしくなって、勉強や仕事のモチベーションが上がり、自己肯定感や自信を強く持てるのです。

「一緒にいて楽しい」と感じる者同士が集まって送っていく生活は、もちろん楽しい時であることに間違いありませんが「気が合わない」「自分と違う」と思った人が、意外にも自分の良さを引き出してくれたりする場合があります。生物も人間もそれぞれがみんな違ってはいるものです。人間同士が共存するために大切なことは、お互いの違いを認めて、尊重し合い、思いやりを持って、つながりを深めていくことではないでしょうか。

自分にとってのコンパニオンプランツとは、どんな人でしょうか。意外と近くにいるのかもしれない。